

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
高 等 学 校 商 業

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、22ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは**不要**です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 の解答欄の③にマークしてください。

(例1)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="1"/>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などの \square には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$ に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
$\boxed{2}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{3}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{4}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
$\boxed{5}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{6}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{7}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$ に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は $\boxed{11}$ 、 $\boxed{12}$ 、 $\boxed{13}$ 。」と表示のある間に対して、 $\mathbf{2}$ と $\mathbf{5}$ と $\mathbf{8}$ と解答する場合には、次の(例4)のように「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」の順にマークします。

このとき、「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」以外の「 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{8}$ 」や「 $\mathbf{8}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
$\boxed{11}$	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{12}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{13}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

1

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述は、高等学校学習指導要領商業の「目標」である。空欄 **ア** と **イ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は **1**。

商業の見方・考え方を働かせ、**ア** 学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、**イ** を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1 **ア** 実践的・体験的な

イ ビジネスの意義や役割

2 **ア** 実践的・体験的な

イ 職業人に求められる倫理観

3 **ア** 創造的な能力と実践的な態度を育てる

イ ビジネスの意義や役割

4 **ア** 創造的な能力と実践的な態度を育てる

イ 職業人に求められる倫理観

[問 2] 次の第1から第20は、高等学校学習指導要領商業の「各科目」の名称である。空欄 **ア** と **イ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は **2** 。

第1	ビジネス基礎	第2	課題研究
第3	総合実践	第4	ビジネス・コミュニケーション
第5	マーケティング	第6	商品開発と流通
第7	観光ビジネス	第8	ビジネス・マネジメント
第9	ア 経済	第10	ビジネス法規
第11	簿記	第12	財務会計Ⅰ
第13	財務会計Ⅱ	第14	原価計算
第15	管理会計	第16	情報処理
第17	ソフトウェア活用	第18	プログラミング
第19	ネットワーク活用	第20	イ 管理

- | | | |
|---|----------------|-----------------|
| 1 | ア ビジネス | イ ネットワーク |
| 2 | ア ビジネス | イ ビジネス情報 |
| 3 | ア グローバル | イ ネットワーク |
| 4 | ア グローバル | イ ビジネス情報 |

2 「ビジネス基礎」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の卸売業に関する用語**ア**～**ウ**と、卸売業に関する記述A～Cとの組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **3**。

- ア** 総合商社
- イ** 元卸売業者
- ウ** 産地卸売業者

- A 産業用品や生活用品など、大規模に生産されている商品を生産者から直接仕入れ、他の卸売業者に販売する。
- B 農水産物や小規模に生産される工業製品などを買い集め、大口消費者や二次卸売業者、中央卸売市場などに出荷する。
- C 多種多様な商品を取り扱い、貿易業務や資源・海洋・宇宙開発などの支援も行うなど、幅広くビジネスを展開する。

- | | | | |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1 | ア － A | イ － B | ウ － C |
| 2 | ア － A | イ － C | ウ － B |
| 3 | ア － B | イ － A | ウ － C |
| 4 | ア － B | イ － C | ウ － A |
| 5 | ア － C | イ － A | ウ － B |
| 6 | ア － C | イ － B | ウ － A |

[問 2] 売買取引の際に取り交わす文書のうち、買い手が作成する文書として適切なものは、次の1～8のうちのどれか、三つ選び答えよ。ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、 、 。

- 1 見積依頼書
- 2 見積書
- 3 注文書
- 4 注文請書
- 5 納品書
- 6 物品受領書
- 7 請求書
- 8 領収証

[問 3] 次のサプライチェーンマネジメントに関する用語**ア**~**ウ**と、それぞれに関する記述A~Cとの組合せとして適切なものは、下の**1**~**6**のうちのどれか。解答番号は 。

ア EDI

イ RFID

ウ ITFコード

A 異なる企業間のコンピュータを接続し、企業間で取引に関する情報をやりとりするシステム。

B 商品の情報をスキャナで読み取るために、商品を包装しているダンボール箱に印字もしくは貼付されたもの。

C 工場で製造日、出荷日などの情報を記録したICタグなどを商品に貼付し、種類や数量、位置情報などを判別して、検品作業や在庫管理などを効率化する技術。

1 **ア**-A **イ**-B **ウ**-C

2 **ア**-A **イ**-C **ウ**-B

3 **ア**-B **イ**-A **ウ**-C

4 **ア**-B **イ**-C **ウ**-A

5 **ア**-C **イ**-A **ウ**-B

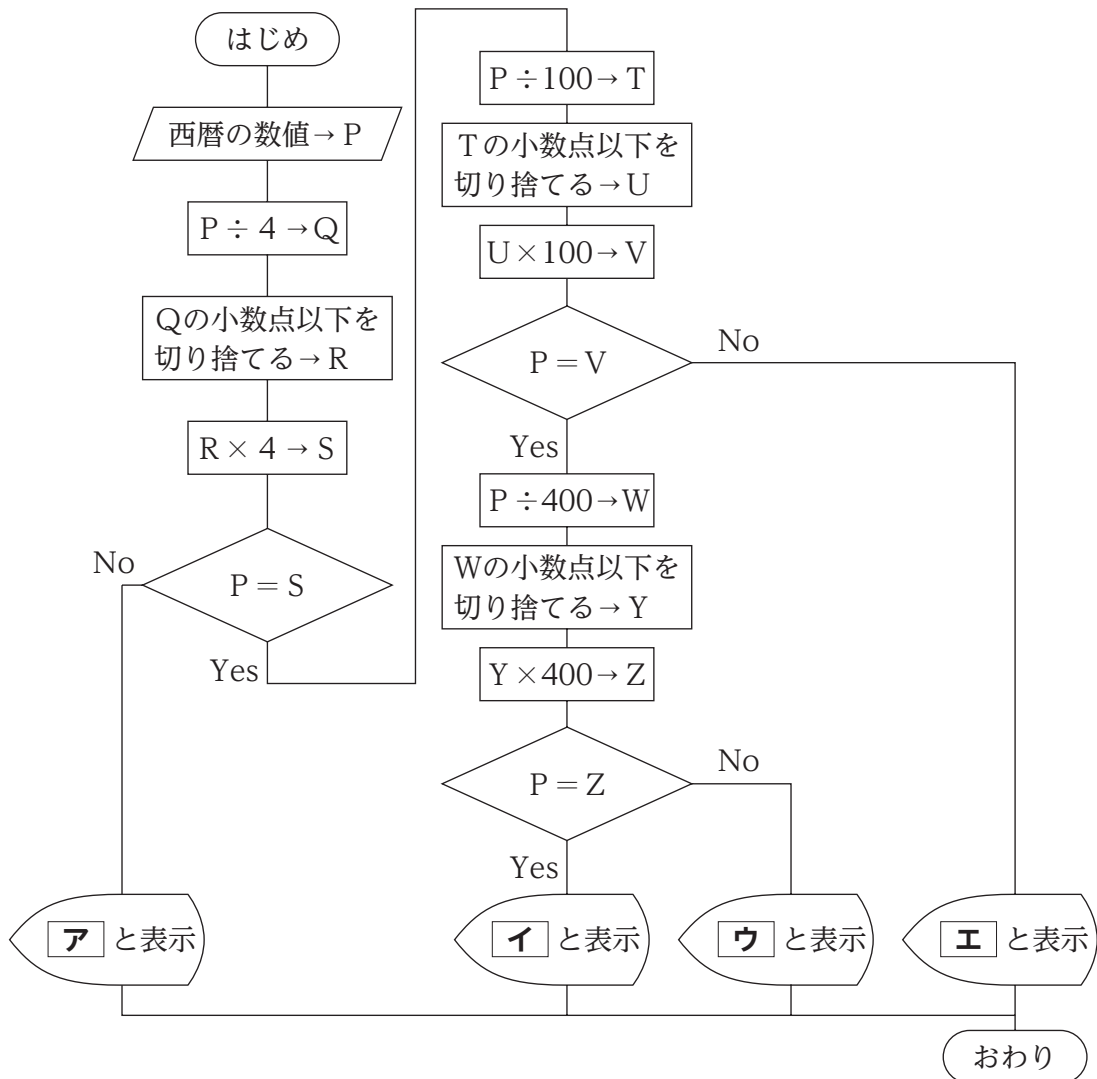
6 **ア**-C **イ**-B **ウ**-A

3 次の問に答えよ。

[問] 次の【うるう年の決め方】に基づいて作られた下の流れ図で、うるう年か平年かを判断して表示するとき、図中の空欄 **ア** ~ **エ** に表示されるものの組合せとして適切なものは、下の 1 ~ 4 のうちのどれか。解答番号は **8**。

【うるう年の決め方】

- (1) 西暦の数値を 4 で割ったとき、商が整数で余りが出る場合は平年である。
- (2) 西暦の数値を 4 で割ったとき、商が整数で余りが出ない場合、
 - ① 100 で割ったとき、商が整数で余りが出る場合はうるう年である。
 - ② 100 で割ったとき、商が整数で余りが出ないが、400 で割ったとき、商が整数で余りが出る場合は平年である。
 - ③ 400 で割ったとき、商が整数で余りが出ない場合はうるう年である。



	ア	イ	ウ	エ
1	うるう年	うるう年	平年	平年
2	平年	うるう年	平年	うるう年
3	うるう年	平年	うるう年	平年
4	平年	平年	うるう年	うるう年

4 「ビジネス情報分野」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の表計算ソフトウェアにおける表は、ある洋品店の1日の売上に関するデータを下の処理条件に従って作成したものである。セルB4に入力されている式として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、B4の式をB5からB10までコピーするものとする。解答番号は 。

	A	B	C	D	E
1					
2	商品売上一覧表				
3	注文コード	商品名	単価	数量	金額
4	AY102M	シャツ	3,000	26	78,000
5	MA101G	スーツ	50,000	5	250,000
6	TM103S	ネクタイ	10,000	24	240,000
7	TY102M	シャツ	3,000	13	39,000
8	YM103S	ネクタイ	10,000	38	380,000
9	YM103S	ネクタイ	10,000	42	420,000
10	SA101G	スーツ	50,000	7	350,000
11			合計	155	1,757,000
12					
13	商品一覧表				
14	商品コード	A101	Y102	M103	
15	商品名	スーツ	シャツ	ネクタイ	
16	単価	50,000	3,000	10,000	

処理条件

- (1) B列の「商品名」とC列の「単価」は、A列の「注文コード」の左端から2文字目から5文字目まで抽出した「商品コード」を基に、「商品一覧表」を参照して表示する。
- (2) E列の「金額」は、「単価」×「数量」で計算して求める。

- 1 =HLOOKUP(MID(A4,2,4), \$B\$14:\$D\$16,2,TRUE)
- 2 =HLOOKUP(MOD(A4,2,4), \$B\$14:\$D\$16,2,FALSE)
- 3 =HLOOKUP(MID(A4,1,4), \$B\$14:\$D\$16,2,TRUE)
- 4 =HLOOKUP(MID(A4,2,4), \$B\$14:\$D\$16,2,FALSE)

[問 2] システム開発におけるテスト手法のうち、ホワイトボックステストに関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 本番と同等のテスト環境の下、エンドユーザが確認するテスト。
- 2 プログラムの処理手順が、論理的に正しく構成されているか内部の流れを確認するテスト。
- 3 モジュールの間で正しくデータの受け渡しがされているかを確認するテスト。
- 4 様々な入力に対して出力された値が期待したものかを確認するテスト。

[問 3] ウェブデザイン設計における記述のうち、アクセシビリティに関するものとして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 ネットワークの不具合で画像が表示されなかった場合、どのような画像が表示されるべきであったかが分かるように画像に代替テキストを提供する。
- 2 どの利用者也迷わず情報にたどり着くことができるよう、ウェブサイト内のページのレイアウトを統一する。
- 3 利用者の年齢や目的、業種などによって行動パターンを把握し、ウェブページにそれを反映させるようターゲットとなる利用者を設定する。
- 4 ウェブサイトのトップページは、利用者がトップページの内容やサイト内の各ページのレイアウトなどに興味をもち、サイト内で情報を探しやすいように設定する。

[問 4] 次の表は、表計算ソフトウェアでテストの結果をまとめたものである。C42からF42に示された各科目の追試基準点と比べ、追試基準点未満の科目が一つでもあればG列の判定欄に「追試」と表示させる。このとき、G2に入力されている式として最も適切なものは、下の1～4のうちではどれか。ただし、G2の式をG3からG41までコピーするものとする。解答番号は 。

	A	B	C	D	E	F	G
1	番号	名前	国語総合	数学 I	英語表現 I	生物基礎	判定
2	1	AAAA	44	95	48	52	
3	2	BBBB	79	55	52	40	
4	3	CCCC	53	78	78	94	
5	4	DDDD	83	56	83	23	追試
6	5	EEEE	95	73	61	53	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
38	37	WWWW	94	81	48	69	
39	38	XXXX	25	28	87	65	追試
40	39	YYYY	67	92	39	42	
41	40	ZZZZ	77	28	92	92	
42		追試基準点	30	25	30	35	

- 1 =IF(OR(C2>C\$42,D2>D\$42,E2>E\$42,F2>F\$42),"追試","")
 2 =IF(OR(C2<C42,D2<D42,E2<E42,F2<F42),"追試","")
 3 =IF(AND(C2>=C\$42,D2>=D\$42,E2>=E\$42,F2>=F\$42),"","追試")
 4 =IF(AND(C2<=\$C42,D2<=\$D42,E2<=\$E42,F2<=\$F42),"","追試")

[問 5] 次の表は、表計算ソフトウェアで作成した5月1日から5月11日までの学習時間集計表である。5月1日から5月11日までの合計学習時間の「時間」をE14に、「分」をF14にそれぞれ表示させる。このとき、E14とF14に入力されている式の組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 13。

	A	B	C	D	E	F
1						
2	日付	開始時刻	終了時刻	学習時間	時間	分
3	5/1	18:00	20:00	2:00	2	0
4	5/2	18:10	18:30	0:20	0	20
5	5/3	17:30	19:00	1:30	1	30
6	5/4	16:45	20:00	3:15	3	15
7	5/5	9:00	13:15	4:15	4	15
8	5/6	12:45	15:15	2:30	2	30
9	5/7	20:30	21:05	0:35	0	35
10	5/8	19:45	20:40	0:55	0	55
11	5/9	16:50	18:20	1:30	1	30
12	5/10	19:45	20:30	0:45	0	45
13	5/11	16:50	18:20	1:30	1	30
14				合計	19	5

	E 14	F 14
1	=SUM(E3:E13)+INT(SUM(F3:F13)/60)	=MOD(SUM(F3:F13),60)
2	=SUM(E3:E13)+INT(SUM(E3:E13)/60)	=MOD(SUM(F3:F13),60)
3	=SUM(F3:F13)+INT(SUM(F3:F13)/60)	=MOD(SUM(E3:E13),60)
4	=SUM(F3:F13)+INT(SUM(E3:E13)/60)	=MOD(SUM(E3:E13),60)

5 「経済活動と法」に関する次の問に答えよ。

[問] 知的財産権に関する記述として適切なものは、次の**1**～**4**のうちのどれか。解答番号は

14。

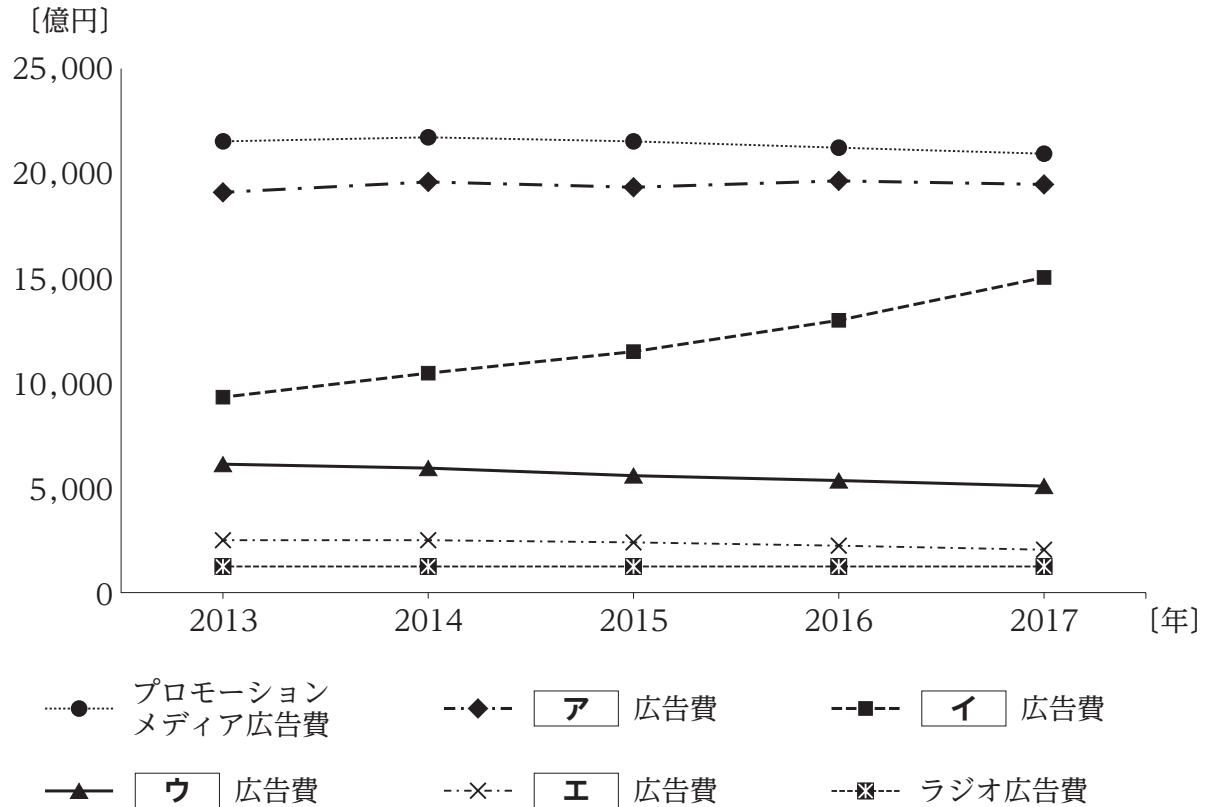
- 1** 著作権は、小説、講演、映画、写真、コンピュータ・プログラム等、思想・感情を創作的に表現し、文化庁に出願し登録された者に認められる権利である。
- 2** 特許権は、新しい機械、その使用方法、又はその製造方法を発明し、特許庁に出願し登録された者に認められる権利である。
- 3** 回路配置利用権は、半導体集積回路の配置の創作に関する知的財産権であり、創作されたと同時に認められる権利である。
- 4** 育成者権は、米、ぶどうなど新しい農林水産植物の品種を育成し、経済産業省に出願し登録された者に認められる権利である。

6 「マーケティング」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] マーケティングに関する記述として適切なものは、次の**1**～**4**のうちのどれか。解答番号は **15**。

- 1** マーケティングの目標には、需要の開拓や知名度の獲得、取引先の拡大、売上高の増加、利益率の向上など多様なものが存在し、これらの目標達成を目指す行動計画がマーケティング計画である。この計画の中心は、自社商品の位置付けを行う S C M と、それに適合するマーケティング活動の組合せとして 4 P 政策の内容を決めることである。
- 2** 個別の商品市場での競争を超えて、事業レベルや企業レベルで持続的な競争優位性を実現するためのマーケティングを戦略的マーケティングという。具体的な事業戦略の分析手法の一つとして、経営資源の価値性、希少性、模倣困難性、代替困難性の特性を評価する V R I N 分析が挙げられる。
- 3** リレーションシップ マーケティングでは、顧客との関係性自体を重要な経営資源とみなして、その構築、維持、強化が重要であるとしている。具体的な手法の一つとして、顧客との緊密で継続的なリレーションシップの構築を目的として、顧客データベースなどを企業活動に活用するコーズリレーテッド マーケティングが挙げられる。
- 4** ソーシャル マーケティングは、社会志向のマーケティングと非営利組織のマーケティングという二つに分けられる。社会志向のマーケティングの具体的な手法の一つとしては、環境に悪影響を及ぼす過剰な需要や不道德な需要などを、事態が改善するレベルまで減退させようとする価値共創マーケティングが挙げられる。

[問 2] 次のグラフは、2013年から5 年間の我が国における広告媒体別の広告費の移り変わりを示したものである。空欄 **ア** ~ **エ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の 1 ~ 4 のうちのどれか。解答番号は **16**。



※ テレビメディア広告費は、地上波テレビと衛星メディア関連を合算している。

※ インターネット広告費は、媒体費と広告制作費を合算している。

(「2017年 日本の広告費」(株式会社 電通) から作成)

- | | | | | |
|---|------------------|------------------|-------------|-------------|
| 1 | ア テレビメディア | イ インターネット | ウ 雑誌 | エ 新聞 |
| 2 | ア テレビメディア | イ インターネット | ウ 新聞 | エ 雑誌 |
| 3 | ア インターネット | イ テレビメディア | ウ 雑誌 | エ 新聞 |
| 4 | ア インターネット | イ テレビメディア | ウ 新聞 | エ 雑誌 |

7 「簿記」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 取引とその仕訳に関する記述として適切なものは、次の 1～5 のうちのどれか。解答番号は **17**。

- 1 A商店は、B商店に商品¥400,000を売り渡し、代金のうち¥300,000はA商店が振り出していた小切手を受け取り、残額は現金で受け取った。

借方 現金 ¥400,000 貸方 売上 ¥400,000

- 2 C商店は、D商店から商品¥200,000を仕入れ、その代金支払いのために、売掛金のある得意先E商店あてに為替手形¥100,000を振り出し、E商店の引き受けを得て、D商店に渡し、残額はD商店あての約束手形¥100,000を振り出して支払った。

借方 仕入 ¥200,000 貸方 受取手形 ¥100,000
支払手形 ¥100,000

- 3 F商店は、平成31年4月1日(期首)にこれまで使用していた備品をG商店に¥900,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品は平成29年10月1日に¥1,200,000で購入したもので、定額法により、残存価額は零(0)、耐用年数は8年として減価償却を計算し、間接法で記帳してきた。

借方 備品減価償却累計額 ¥225,000 貸方 備品 ¥1,200,000
未収金 ¥900,000
固定資産売却益 ¥75,000

- 4 H商店は、委託販売のため、I商店へ原価¥600,000の商品を積送し、発送費用¥25,000を現金で支払った。なお、この商品について発送と同時に¥500,000の荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金¥496,200は当座預金とした。

借方 積送品 ¥625,000 貸方 仕入 ¥600,000
現金 ¥25,000
当座預金 ¥496,200 前受金 ¥500,000
手形売却損 ¥3,800

- 5 J商店は、さきにK商店あてに約束手形を振り出して¥800,000を借り入れていたが、支払期日の延期を申し込み、承諾を得たので、新手形を振り出して、旧手形と交換した。なお、支払期日の延期に伴う利息¥16,000は現金で支払った。

借方 手形借入金 ¥816,000 貸方 手形借入金 ¥800,000
現金 ¥16,000

[問 2] 「簿記」における「2区分の損益計算書」の授業において、次の資料を基にして、「売上原価の金額」について質問をしたところ、生徒A、生徒B、生徒Cが下のように解答した。下の**ア・イ**は、三人の生徒のうち、誤答に至った二人の生徒に対する指導についての記述である。生徒A～Cのうち、誤答に至った二人の生徒の解答と、それぞれに対する指導**ア・イ**との組合せとして最も適切なものは、下の**1～4**のうちではどれか。解答番号は 18。

損 益 計 算 書			
L商店		平成○年1月1日から平成○年12月31日まで	
		(単位：円)	
費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	1,000,000	売上高	10,000,000
当期商品仕入高	8,700,000	期末商品棚卸高	2,000,000
()	()	()	()
	12,000,000		12,000,000
販売費及び一般管理費	1,410,000	()	()
当期純利益	890,000	()	()
	2,300,000		2,300,000

生徒Aは、「売上原価は¥9,700,000です。」と答えた。

生徒Bは、「売上原価は¥7,700,000です。」と答えた。

生徒Cは、「売上原価は¥2,300,000です。」と答えた。

ア この生徒は、売上総利益が売上原価だと誤って認識しているため、期首商品棚卸高に当期商品仕入高を加えた合計額から、期末商品棚卸高を差し引くことで売上原価が算出されることを指導する。

イ この生徒は、期首商品棚卸高と当期商品仕入高の合計額が売上原価だと誤って認識しているため、期首商品棚卸高と当期商品仕入高の合計額から、期末商品棚卸高を差し引くことで売上原価が算出されることを指導する。

- | | |
|-------|-----|
| 1 A－ア | B－イ |
| 2 A－イ | C－ア |
| 3 B－ア | A－イ |
| 4 C－イ | B－ア |

8

「財務会計Ⅰ」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次のA商事株式会社（決算日：平成〇2年3月31日）の資料から、空欄 **ア** ~ **ウ** の金額の組合せとして適切なものは、次のページの1~4のうちのどれか。なお、作問の都合上、一部空欄としている部分がある。解答番号は **19** 。

資 料

a 前期末貸借対照表における純資産の部

A商事株式会社		貸借対照表	
		平成〇1年3月31日	(単位：千円)
~~~~~			
純 資 産 の 部			
I 株 主 資 本			
(1)	資 本 金		20,000
(2)	資 本 剰 余 金		
1.	資 本 準 備 金	<u>2,000</u>	
	資 本 剰 余 金 合 計		2,000
(3)	利 益 剰 余 金		
1.	利 益 準 備 金	( )	
2.	そ の 他 利 益 剰 余 金		
①	新 築 積 立 金	( )	
②	繰 越 利 益 剰 余 金	<u>1,200</u>	
	利 益 剰 余 金 合 計		<u>3,000</u>
	株 主 資 本 合 計		( )
	純 資 産 合 計		( )

b 当期末貸借対照表における純資産の部

A商事株式会社		貸借対照表	
		平成〇2年3月31日	(単位：千円)
~~~~~			
純 資 産 の 部			
I 株 主 資 本			
(1)	資 本 金		20,000
(2)	資 本 剰 余 金		
1.	資 本 準 備 金	<u>2,000</u>	
	資 本 剰 余 金 合 計		2,000
(3)	利 益 剰 余 金		
1.	利 益 準 備 金	(ア)	
2.	そ の 他 利 益 剰 余 金		
①	新 築 積 立 金	920	
②	繰 越 利 益 剰 余 金	()	
	利 益 剰 余 金 合 計		<u>3,200</u>
	株 主 資 本 合 計		()
	純 資 産 合 計		<u>25,200</u>

c 平成○1年度の純資産の変動に関する情報

- ① 剰余金の配当 500 千円
- ② 利益準備金積立額 50 千円
- ③ 新築積立金積立額 () 千円
- ④ 当期純利益 () 千円

d 当期末株主資本等変動計算書

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

A商事株式会社 平成○1年4月1日から平成○2年3月31日まで (単位：千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					新築積立金	繰越利益剰余金		
当 期 首 残 高	()	()	()	980	820	()	()	()
当 期 変 動 額								
剰余金の配当				()		△()	△()	△()
新築積立金の積立					(イ)	△()	—	—
当期純利益						()	()	()
当期変動額合計	—	—	—	()	()	()	()	()
当 期 末 残 高	()	()	()	()	()	(ウ)	()	()

	ア	イ	ウ
1	980	20	1,250
2	1,030	100	1,100
3	1,200	50	1,520
4	1,030	100	1,250

[問 2] 次のB商事株式会社の資料とC物産株式会社の損益計算書から、B商事株式会社とC物産株式会社に関する記述として適切なものは、次のページの1～4のうちのどれか。解答番号は 20。

資 料

a B商事株式会社の資料（会計期間は平成○1年4月1日から平成○2年3月31日まで）

a	期首商品棚卸高	3,200千円			
b	期末商品棚卸高	4,300千円			
		損	益	(単位：千円)	
3/31	仕 入	30,000	3/31	売 上	40,000
〃	給 料	8,400	〃	受 取 利 息	900
〃	発 送 費	1,300	〃	受 取 配 当 金	3,500
〃	貸倒引当金繰入	190	〃	仕 入 割 引	1,800
〃	減 価 償 却 費	380	〃	固 定 資 産 売 却 益	2,300
〃	雑 費	230			
〃	支 払 利 息	280			
〃	有価証券評価損	430			
〃	固定資産除却損	1,370			
〃	災 害 損 失	1,720			
〃	法 人 税 等	1,680			
〃	繰越利益剰余金	2,520			
		48,500			48,500

b C物産株式会社の損益計算書

損 益 計 算 書		
C物産株式会社 平成○1年4月1日から平成○2年3月31日まで (単位：千円)		
I	売 上 高	50,000
II	売 上 原 価	
1.	期首商品棚卸高	3,900
2.	当期商品仕入高	34,200
	合 計	38,100
3.	期末商品棚卸高	3,100
	売上総利益	15,000
III	販売費及び一般管理費	7,300
	営業利益	7,700
IV	営業外収益	500
V	営業外費用	1,200
	経常利益	7,000
VI	特別利益	300
VII	特別損失	800
	税引前当期純利益	6,500
	法人税・住民税及び事業税	2,600
	当期純利益	3,900

- 1 B 商事株式会社の売上高は、C 物産株式会社の売上高よりも10,000千円少ないが、B 商事株式会社の売上総利益は、C 物産株式会社の売上総利益よりも5,000千円多い。
- 2 B 商事株式会社の商品回転率は10回で、C 物産株式会社の商品回転率の8回に比べて高いので、商品の在庫期間が短く、販売効率がよいと判断できる。
- 3 B 商事株式会社の売上総利益は、C 物産株式会社の売上総利益よりも5,000千円少ないが、B 商事株式会社の当期純利益は、C 物産株式会社の当期純利益よりも1,380千円多い。
- 4 B 商事株式会社の販売費及び一般管理費は、C 物産株式会社の販売費及び一般管理費よりも3,200千円多い。

[問 3] 次の資料のとおり、D物産株式会社は平成〇1年3月31日にE産業株式会社を支配した。平成〇2年3月31日におけるD物産株式会社の連結貸借対照表におけるのれんの金額、利益剰余金の金額、非支配株主持分の金額の組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、D物産株式会社をP社、E産業株式会社をS社とする。また、両社とも決算は年1回で、会計期間は平成〇1年4月1日から平成〇2年3月31日までである。なお、作問の都合上、一部空欄としている部分がある。解答番号は 21。

資 料

a 平成〇2年3月31日における個別財務諸表

現金預金	200,000	買掛金	80,000
売掛金	120,000	資本金	300,000
商品	30,000	利益剰余金	60,000
子会社株式	90,000		
	<u>440,000</u>		<u>440,000</u>

現金預金	100,000	買掛金	55,000
売掛金	60,000	資本金	100,000
商品	10,000	利益剰余金	15,000
	<u>170,000</u>		<u>170,000</u>

売上原価	350,000	売上高	500,000
その他の費用	114,000	受取配当金	4,000
当期純利益	40,000		
	<u>504,000</u>		<u>504,000</u>

売上原価	126,000	売上高	180,000
その他の費用	44,000		
当期純利益	10,000		
	<u>180,000</u>		<u>180,000</u>

	株主資本	
	資本金	利益剰余金
当期首残高	300,000	56,000
当期変動額		
剰余金の配当		△36,000
当期純利益		40,000
当期変動額計	0	4,000
当期末残高	300,000	60,000

	株主資本	
	資本金	利益剰余金
当期首残高	100,000	10,000
当期変動額		
剰余金の配当		△5,000
当期純利益		10,000
当期変動額計	0	5,000
当期末残高	100,000	15,000

- b P社は平成〇1年3月31日にS社の発行する株式の80%を90,000千円で取得した。取得時のS社の株主資本は、資本金100,000千円、利益剰余金10,000千円であった。なお、S社の資産・負債の帳簿価額と時価は同一とする。
- c のれんは償却期間を20年とし、定額法で償却する。
- d 当期中に子会社が計上した純利益は () 千円である。
- e 当期中に子会社が支払った配当金は () 千円である。

	のれん	利益剰余金	非支配株主持分
1	1,900千円	63,900千円	22,000千円
2	1,900千円	63,900千円	23,000千円
3	1,800千円	63,800千円	23,000千円
4	1,700千円	63,700千円	24,000千円

9 「原価計算」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の資料は、単純総合原価計算を採用している当月のA製作所に関する資料である。この資料から読み取れる月末仕掛品原価と、完成品原価との組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、月末仕掛品原価の計算は平均法を採用している。また、素材は製造着手のときに投入されるものとし、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。解答番号は 22。

資 料

ア 生産データ	
月末仕掛品	400kg (加工進捗度50%)
正常減損	100kg
完 成 品	2,000kg
なお、正常減損は工程の始点で発生している。	
イ 月初仕掛品原価	
素材費 ￥ 700,000	加工費 ￥ 750,000
ウ 当月製造費用	
素材費 ￥2,900,000	加工費 ￥3,650,000

	月末仕掛品原価	完成品原価
1	¥1,000,000	¥7,250,000
2	¥ 600,000	¥7,000,000
3	¥1,000,000	¥7,000,000
4	¥ 967,000	¥7,240,000

〔問 2〕 次の資料は、直接原価計算を採用しているB製作所の1月から6月までの操業度と原価発生額に関する資料である。高低点法による場合、この資料から読み取れる変動費率と、月間の固定費との組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、月間の正常な操業度の範囲は800時間から1,700時間である。解答番号は 23。

資 料

月	操業度	原価発生額
1月	1,140時間	¥4,100,000
2月	850 〃	〃 3,200,000
3月	1,960 〃	〃 3,800,000
4月	1,260 〃	〃 4,200,000
5月	1,650 〃	〃 5,600,000
6月	1,490 〃	〃 5,000,000

	変動費率	月間の固定費
1	¥3,000	¥2,400,000
2	¥4,000	¥3,200,000
3	¥2,000	¥ 650,000
4	¥3,000	¥ 650,000

31 (32採用) 【 高等学校 商業 】

問題番号		解答番号	正答1	正答2	正答3	配点	備考
大問番号	小問番号						
1	1	1	2			2	
	2	2	3			3	
2	1	3	5			5	
	2	4	1			5	完全解答
		5	3				完全解答
		6	6				完全解答
	3	7	2			5	
3	問	8	2			5	
4	1	9	4			5	
	2	10	2			5	
	3	11	1			5	
	4	12	3			5	
	5	13	1			5	
5	問	14	2			5	
6	1	15	2			5	
	2	16	2			5	
7	1	17	4			5	
	2	18	2			5	
8	1	19	4			5	
	2	20	4			5	
	3	21	2			5	
9	1	22	3			5	
	2	23	4			5	